

岡山県感染症週報 2015年 第30週 (7月20日～7月26日)

◆2015年 第30週 (7/20～7/26) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第28週 2類感染症 結核 1名(80代 男)
 第29週 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1名(O26:40代 女)
 4類感染症 レジオネラ症 1名(60代 男)
 5類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名(70代 男)
 後天性免疫不全症候群 1名(30代 男)
 第30週 3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 2名(O157:10代 女 1名、30代 男 1名)
 4類感染症 E型肝炎 1名(60代 男)
 5類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(90代 男)

■定点把握感染症の発生状況

- 手足口病は、県全体で330名(定点あたり7.87→6.11人)の報告があり、前週より減少しました。
 ○ヘルパンギーナは、県全体で115名(定点あたり3.06→2.13人)の報告があり、前週より減少しました。

【第31週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1名(O26:幼児 女)の発生がありました。(7月31日)

- 腸管出血性大腸菌感染症**は、第29週に1名、第30週に2名の発生報告があり、岡山県の2015年7月26日までの累計報告数は、14名となっています。例年、7～8月は最も発生が多くなる時期です。肉の生食は避け、ハンバーグなどは中心部まで加熱しましょう。生肉に触れた手指は石けんで十分に洗い、生肉の調理に使用した調理器具は、熱湯などで消毒してから他の調理に使用しましょう。ヒトからヒトへの二次感染については、手洗いの徹底などにより、感染を予防することができます。また全国では、保育施設における集団発生も報告されています。オムツの交換時の手洗いや園児に対する手洗い指導の徹底に努めましょう。特にこの季節は、簡易プールなどの衛生管理にも注意が必要です。
- 手足口病**は、県全体で330名(定点あたり7.87→6.11人)の報告があり、前週より減少しました。地域別では、岡山市(10.86人)、倉敷市(7.73人)、真庭地域(7.00人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは「今週の注目感染症」をご覧ください。
- ヘルパンギーナ**は、県全体で115名(定点あたり3.06→2.13人)の報告があり、前週より減少しました。地域別では、倉敷市(3.18人)、岡山市(3.00人)、備中地域(2.57人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。全国の第29週発生状況は、定点あたり3.34人と第20週(5/11～5/17)から増加が続いています。全国的に患者が増加しており、都道府県別では、三重県(11.80人)、佐賀県(8.17人)、大分県(7.69人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、例年7～8月頃が流行のピークとなりますので、今後の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒など、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★	RSウイルス感染症	▶	★
咽頭結膜熱	▶	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▶	★
感染性胃腸炎	▶	★★	水痘	▼	★
手足口病	▶	★★★	伝染性紅斑	▶	★
突発性発疹	▶	★★	百日咳	▶	
ヘルパンギーナ	▶	★★	流行性耳下腺炎	▶	★
急性出血性結膜炎	▶		流行性角結膜炎	▶	★
細菌性髄膜炎	▶		無菌性髄膜炎	▲	★★★
マイコプラズマ肺炎	▶	★	クラミジア肺炎	▶	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▲	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ▼ : 2倍以上の減少 ▶ : 1.1～2倍未満の減少 ▲ : 1.1未満の増減
 ▲ : 1.1～2倍未満の増加 ↑ : 2倍以上の増加

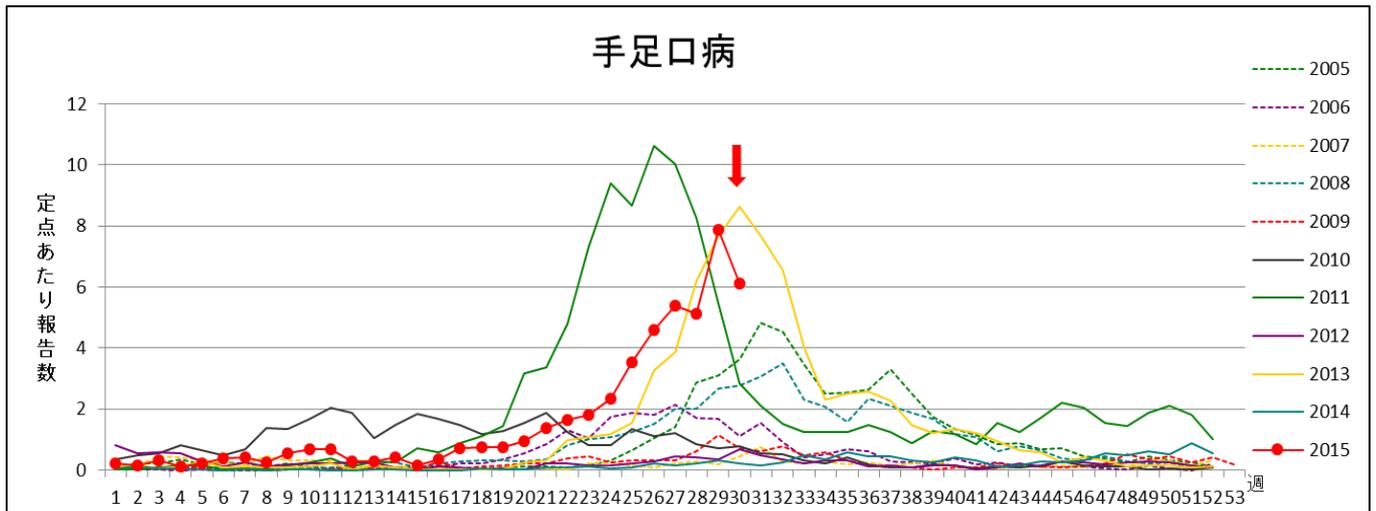
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

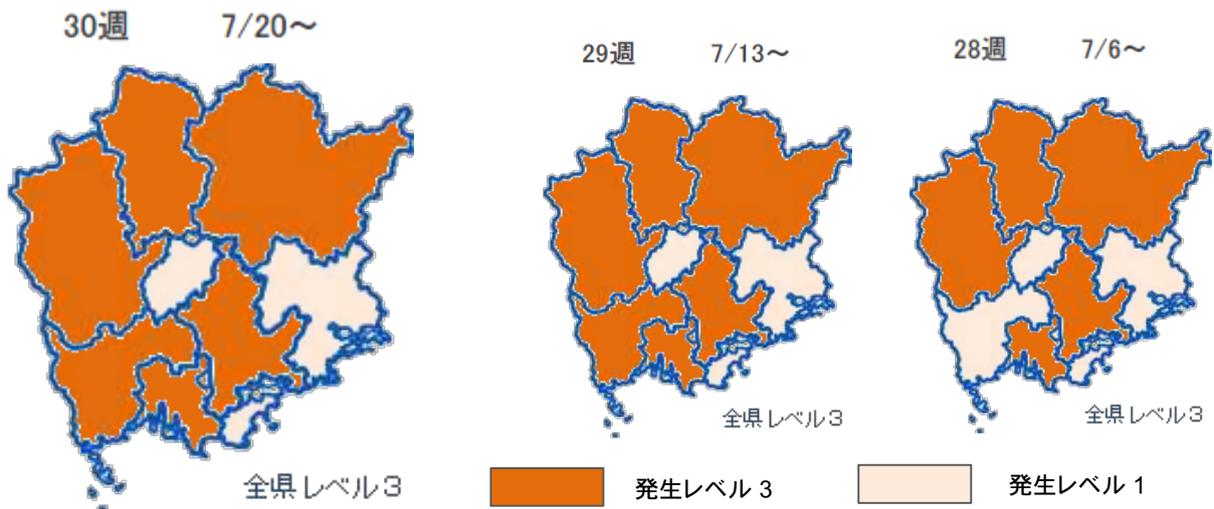
今週の注目感染症

手足口病

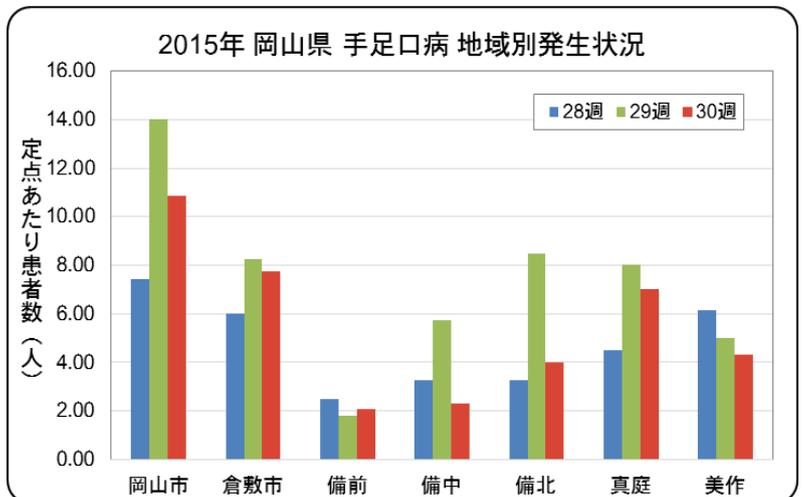
【岡山県の発生状況】



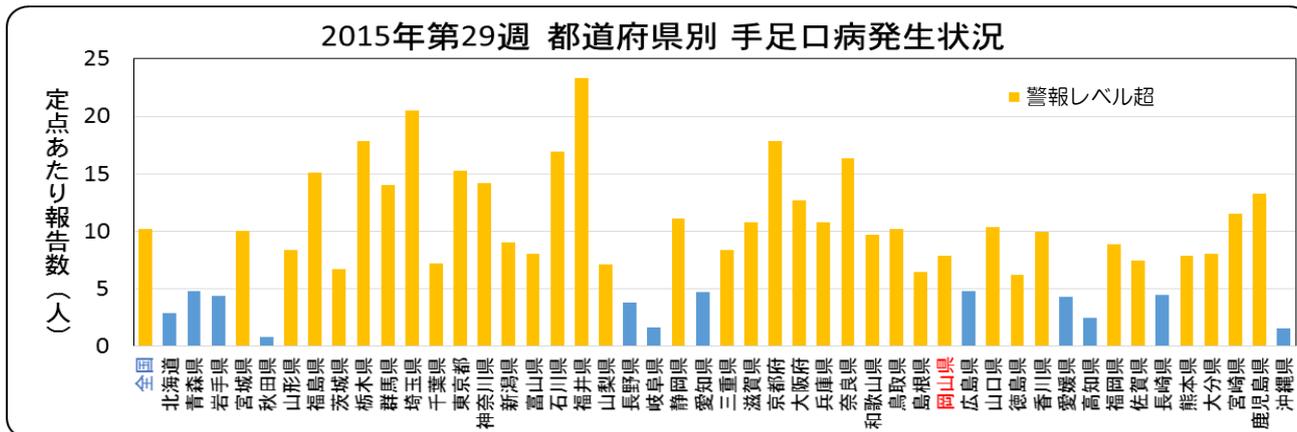
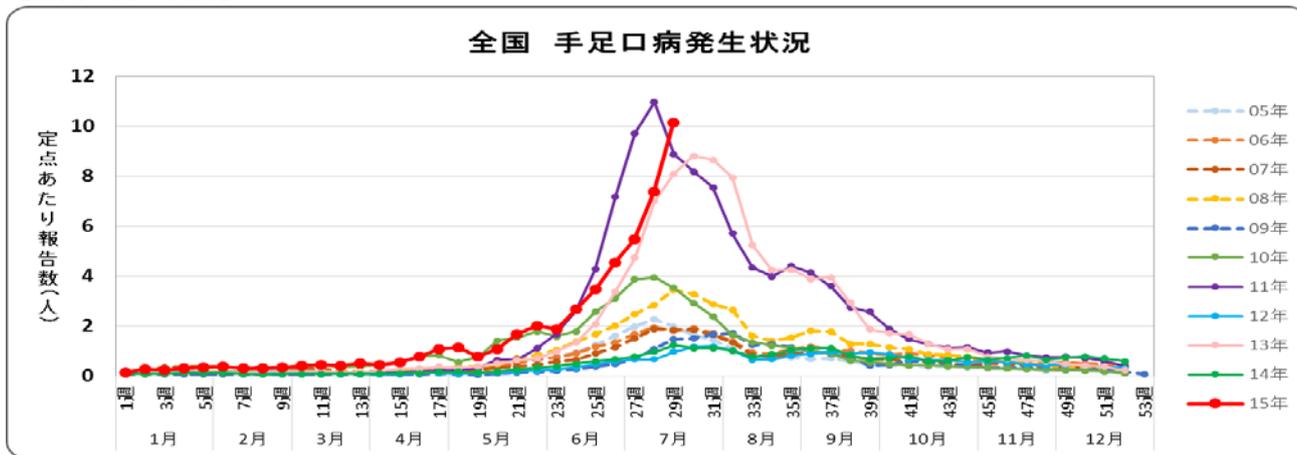
岡山県地区別 手足口病感染症マップ



手足口病は、県全体で330名（定点あたり7.87→6.11人）の報告があり、前週より減少しましたが、過去10年間の同時期と比較して多い状況です。地域別では、ほとんどの地域で患者の減少がみられましたが、備前を除く全ての地域では、ひきつづき発生レベル3で推移しています。岡山市（10.86人）、倉敷市（7.73人）、真庭地域（7.00人）の順で、定点あたり報告数が多くなっています。例年、7～8月頃に流行がピークとなりますので、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。



【全国の発生状況】



全国の第29週の発生状況は、定点あたり10.16人で、6週連続で増加しています。過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。都道府県別では、福井県（23.32人）、埼玉県（20.53人）、栃木県（17.88人）の順で、定点あたり報告数が多くなっており、35都府県で警報レベルを超える流行となっています。

2015年7月24日までに報告された全国の手足口病患者からの検出ウイルスは、コクサッキーウイルスA16型（56.0%）が最も多く、次いでコクサッキーウイルスA6型（23.1%）となっています。中枢神経系合併症の発生率が高いといわれるエンテロウイルス71型の検出割合は、全体の0.3%です。

[IDWR 速報データ 2015年第29週（国立感染症研究所）](#)

[IASR 病原微生物検出情報（国立感染症研究所）](#)

【手足口病とは】

夏に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。主な感染経路は、咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込む飛沫感染や、水疱の内容物や便中に排出されたウイルスが手指を介して口に入る経口感染、ウイルスが付いた手で眼や鼻などの粘膜に触れることによる接触感染です。症状は、3～5日の潜伏期間の後、軽度の発熱とともに、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発疹が出現するのが特徴です。3～7日で水疱が消え、通常、予後は良好ですが、まれに髄膜炎、脳炎を起こすことがあります。特に、エンテロウイルス71型による手足口病は、中枢神経系合併症など、重症化する割合が高いと言われています。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い・手指の消毒・排泄物の適切な処理など、感染予防に努めましょう。

[手足口病とは（国立感染症研究所）](#)

手足口病・ヘルパンギーナなど、夏に流行が見られる感染症が多く発生しています。

○どちらの感染症も、特別な治療法はなく、対症療法が中心となります。口の中に水疱ができ食事を取りにくい場合、柔らかい薄味の食事など工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。

○保育園や幼稚園では集団発生することがあります。うがい・手洗いを励行するとともに、おむつや便の取り扱い時には使い捨てのマスクやゴム手袋を着けるなど、感染予防に努めましょう。

○通常、予後は良好な感染症ですが、まれに重症化することがあります。お子さんの状態に注意し、症状が悪化した場合は早めに医療機関を受診しましょう。

保健所別報告患者数 2015年 30週 (2015/07/20～2015/07/26)

2015年8月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33	-	-	-	-
RSウイルス感染症	2	0.04	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	11	0.20	5	0.36	1	0.09	3	0.30	-	-	-	-	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	0.65	3	0.21	20	1.82	1	0.10	4	0.57	2	0.50	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	263	4.87	43	3.07	76	6.91	48	4.80	18	2.57	31	7.75	8	4.00	39	6.50
水痘	8	0.15	5	0.36	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	330	6.11	152	10.86	85	7.73	21	2.10	16	2.29	16	4.00	14	7.00	26	4.33
伝染性紅斑	14	0.26	12	0.86	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	21	0.39	11	0.79	4	0.36	1	0.10	1	0.14	2	0.50	-	-	2	0.33
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	115	2.13	42	3.00	35	3.18	13	1.30	18	2.57	4	1.00	1	0.50	2	0.33
流行性耳下腺炎	30	0.56	3	0.21	7	0.64	-	-	1	0.14	-	-	-	-	19	3.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	5	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	2	0.40	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2015年 30週 (2015/07/20~2015/07/26)

2015年8月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33	-	-	-	-
咽頭結膜熱	11	0.20	5	0.36	1	0.09	3	0.30	-	-	-	-	-	-	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	0.65	3	0.21	20	1.82	1	0.10	4	0.57	2	0.50	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	263	4.87	43	3.07	76	6.91	48	4.80	18	2.57	31	7.75	8	4.00	39	6.50
水痘	8	0.15	5	0.36	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	330	6.11	152	10.86	85	7.73	21	2.10	16	2.29	16	4.00	14	7.00	26	4.33
伝染性紅斑	14	0.26	12	0.86	1	0.09	1	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	115	2.13	42	3.00	35	3.18	13	1.30	18	2.57	4	1.00	1	0.50	2	0.33
流行性耳下腺炎	30	0.56	3	0.21	7	0.64	-	-	1	0.14	-	-	-	-	19	3.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	0.42	5	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2015年 第30週 2015/07/20～2015/07/26)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	11	-	1	-	3	-	3	2	1	-	-	-	1	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	35	-	1	1	-	3	3	5	4	9	1	1	5	1	1
感染性胃腸炎	263	6	17	30	24	37	21	18	15	11	9	10	29	6	30
水痘	8	-	-	1	1	1	1	-	1	1	-	-	2	-	-
手足口病	330	6	27	114	59	40	32	15	12	10	5	4	2	-	4
伝染性紅斑	14	-	-	2	-	3	3	1	1	1	3	-	-	-	-
突発性発疹	21	1	9	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	115	1	12	25	30	18	11	8	4	-	-	2	3	1	-
流行性耳下腺炎	30	-	-	3	4	3	4	6	1	1	5	1	1	-	1

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	1	-	-	-

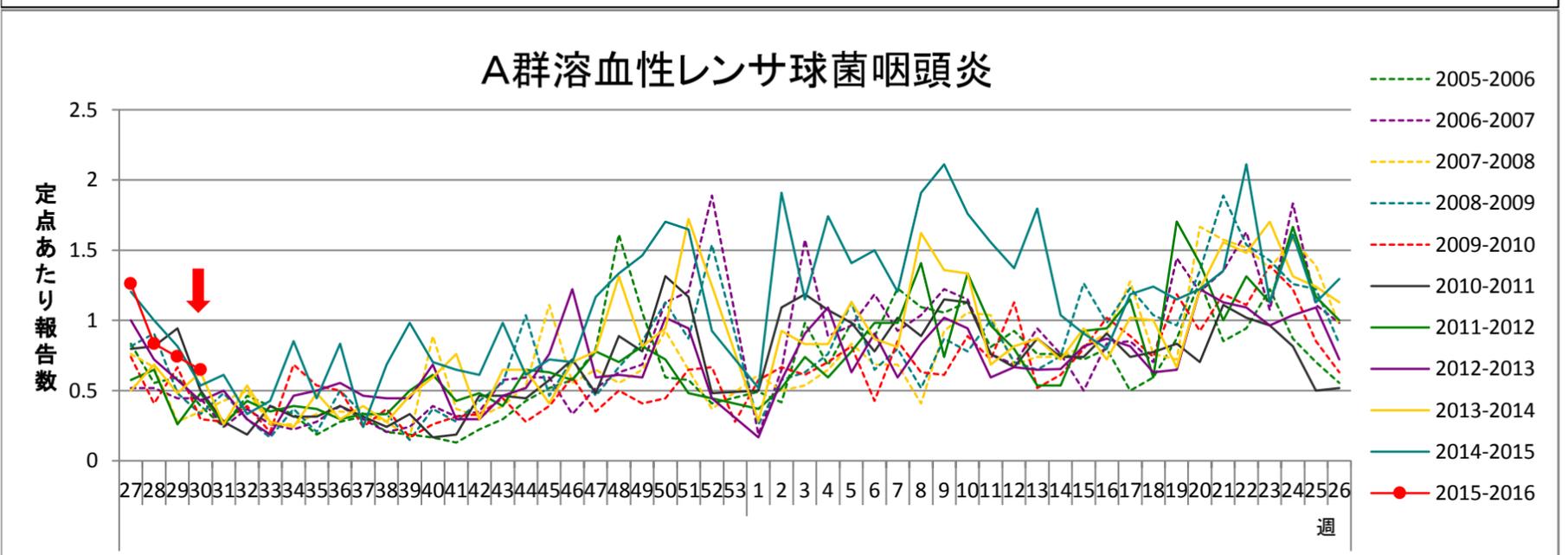
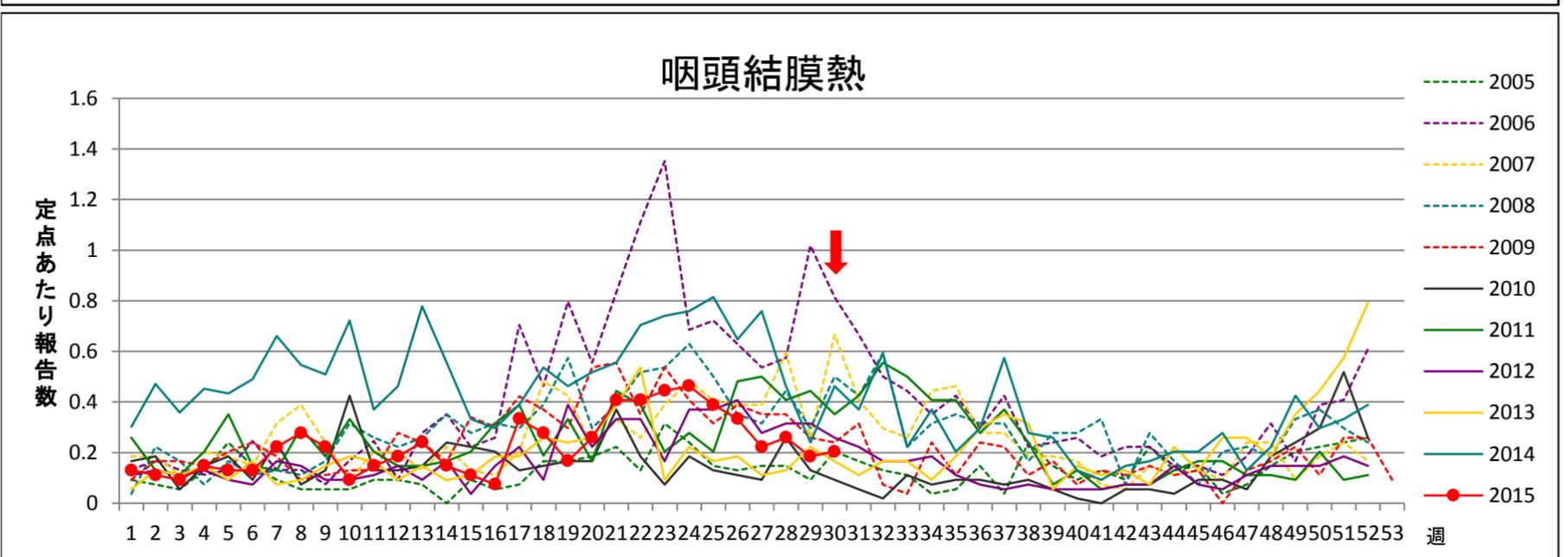
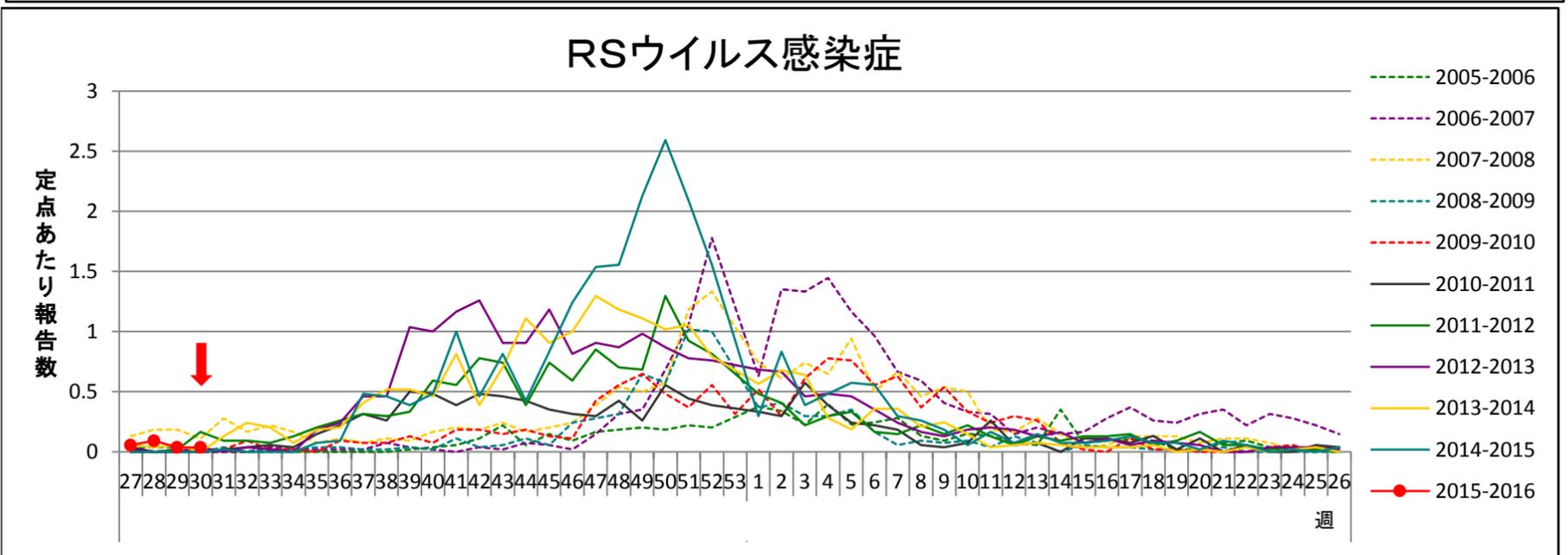
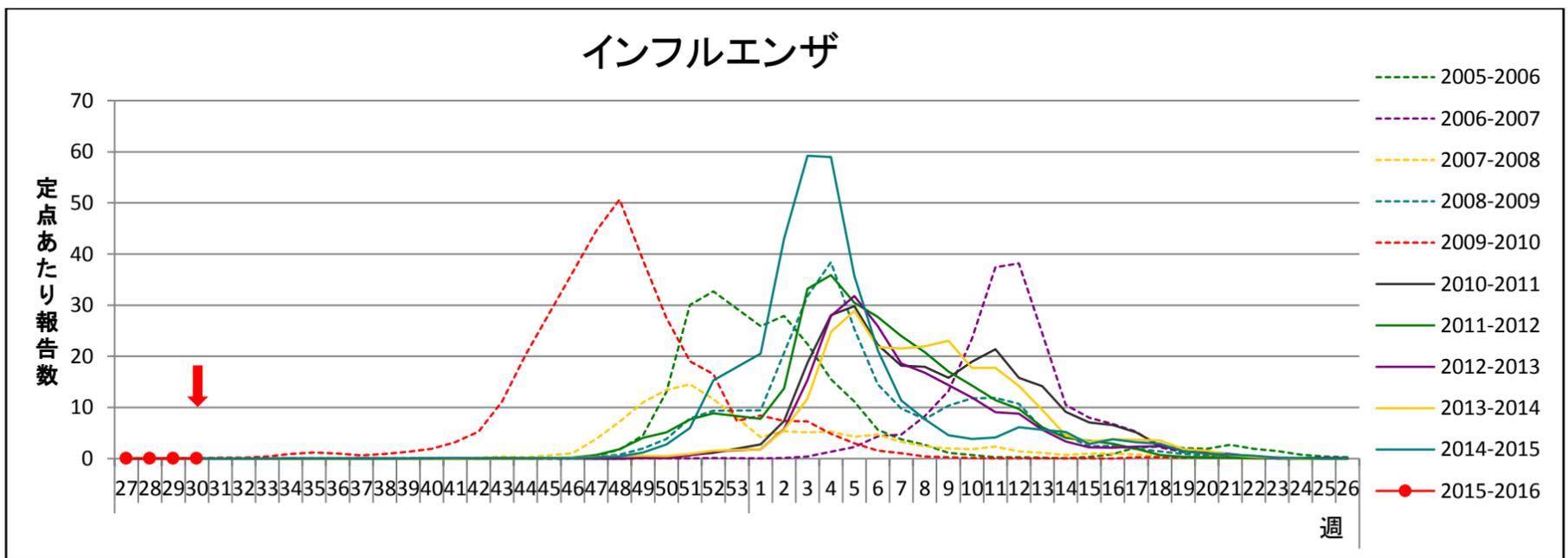
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

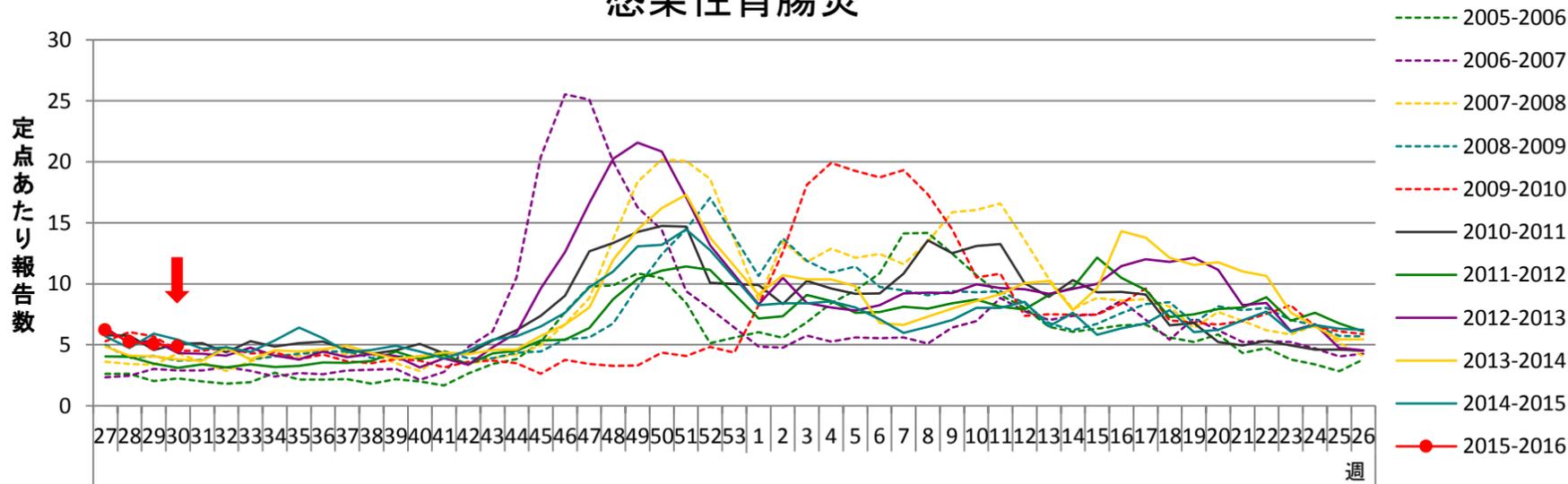
全数把握 感染症患者発生状況

2015年 30週

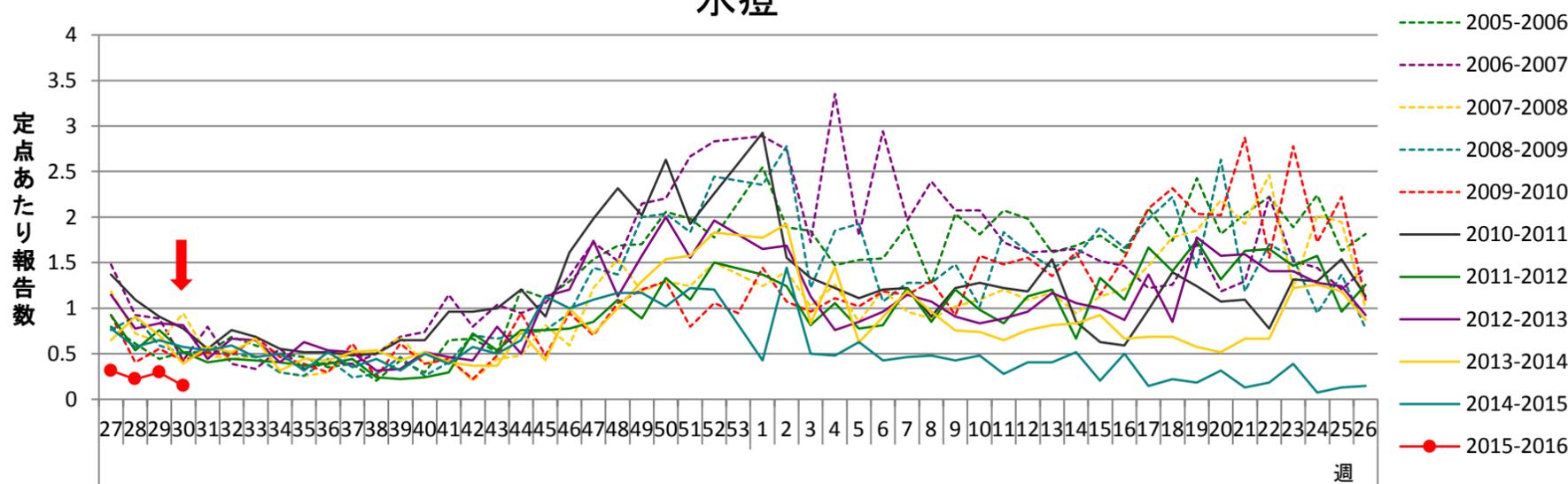
分類	疾病名	2015			疾病名	2015			疾病名	2015		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	185	384	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	1	-	腸管出血性大腸菌感染症	2	14	71
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	1	3	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	6	8
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	4	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	1	-	野兔病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	14	32	レプトスピラ症	-	-	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	11	12	ウイルス性肝炎*3	-	4	7	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	23
急性脳炎*4		-	10	9	クリプトスポリジウム症	-	1	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	1	3	後天性免疫不全症候群	-	15	21	ジアルジア症	-	-	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症		-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	20	27
水痘(入院例に限る。)		-	3	6	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	9	21
播種性クリプトコックス症		-	1	1	破傷風	-	-	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-	2	風しん	-	-	2	麻しん	-	-	6
薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-		-	-	-		-	-	-



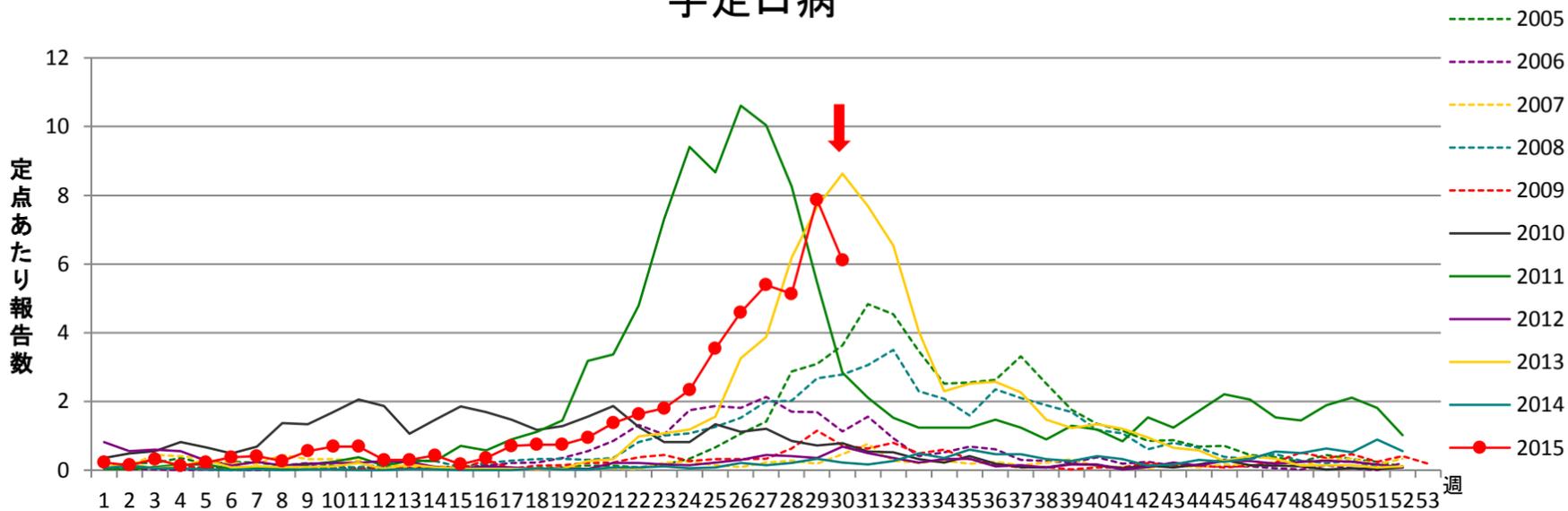
感染性胃腸炎



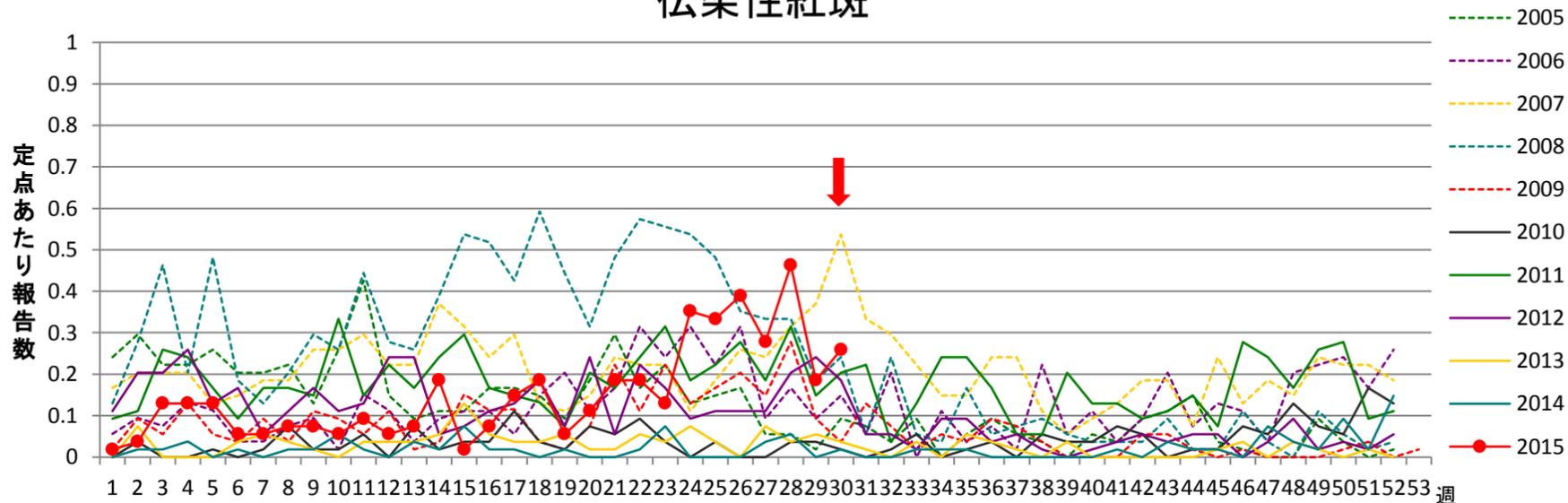
水痘



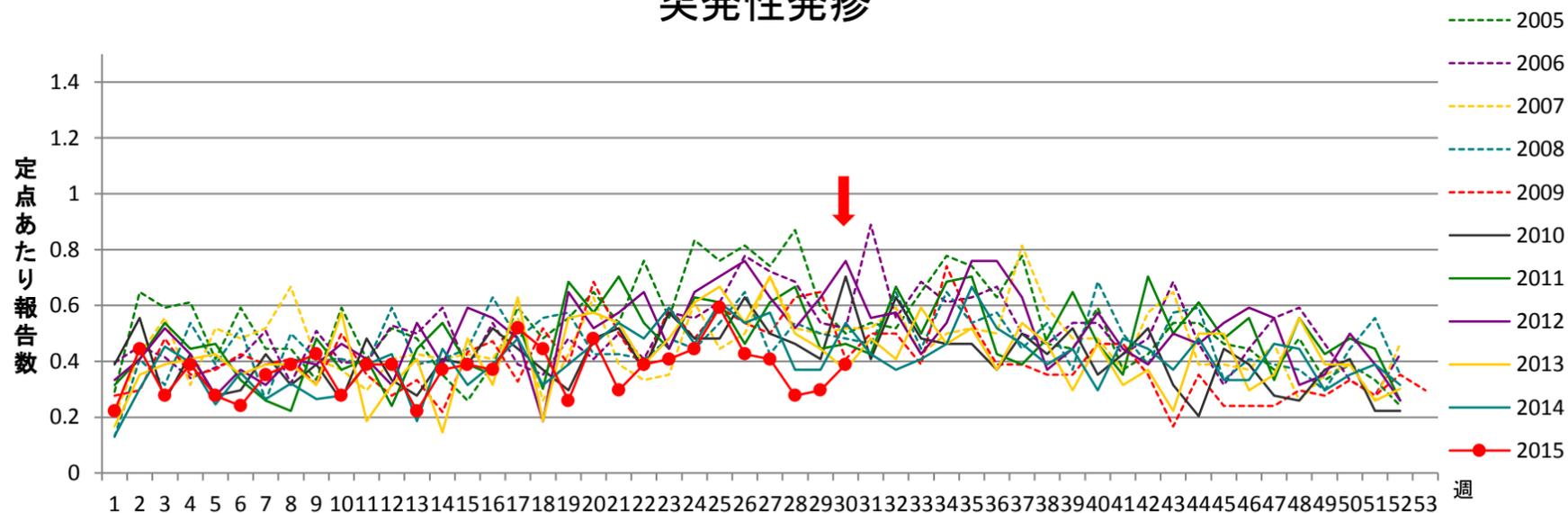
手足口病



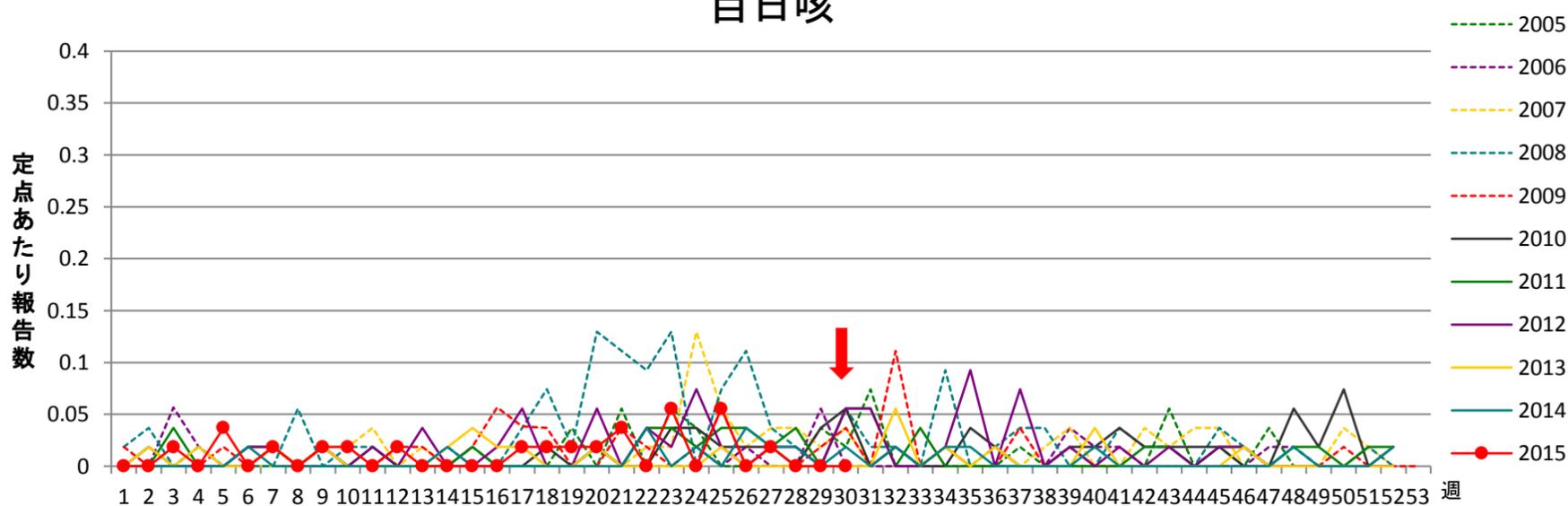
伝染性紅斑



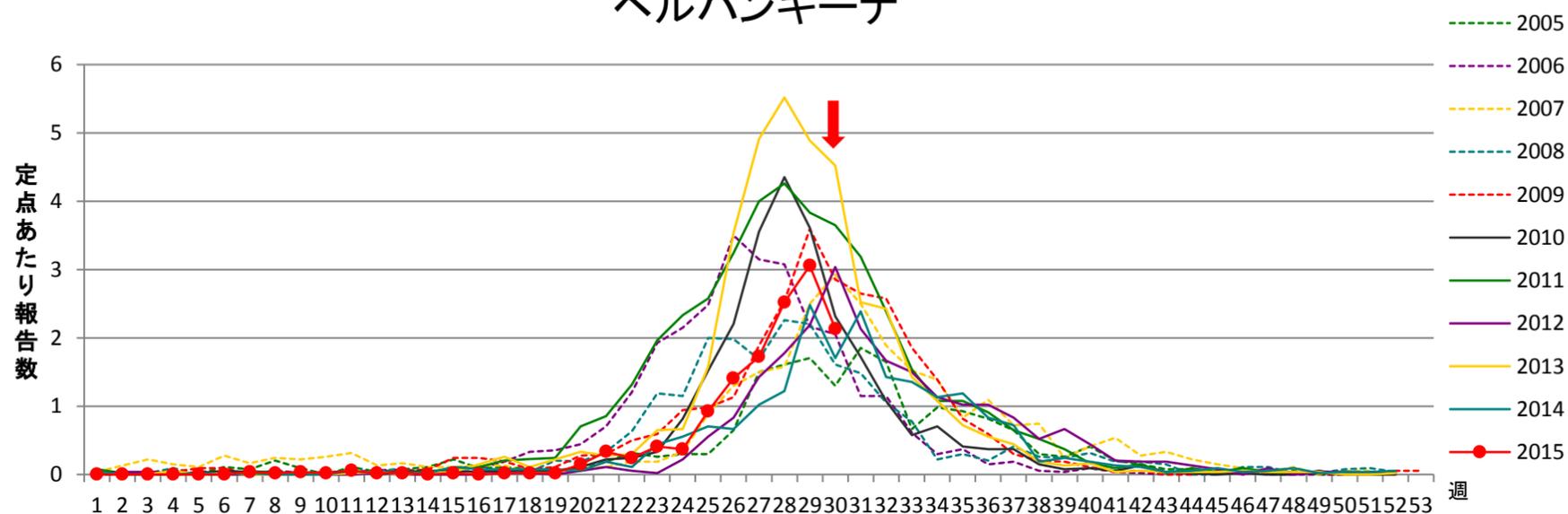
突発性発疹



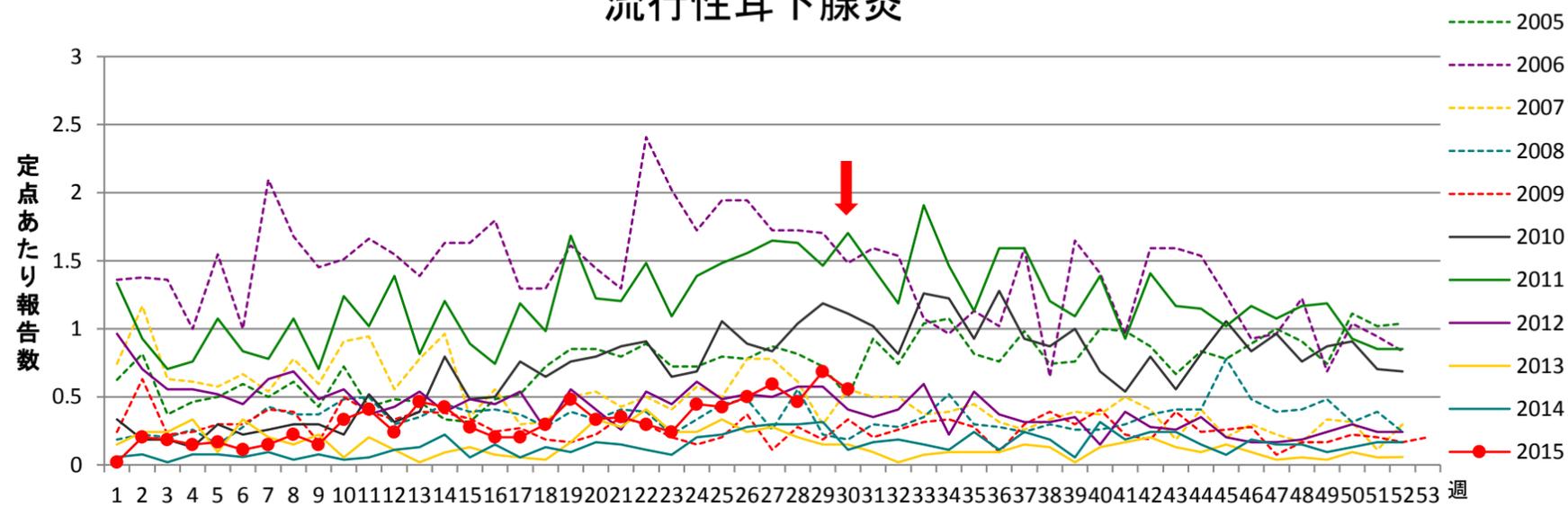
百日咳



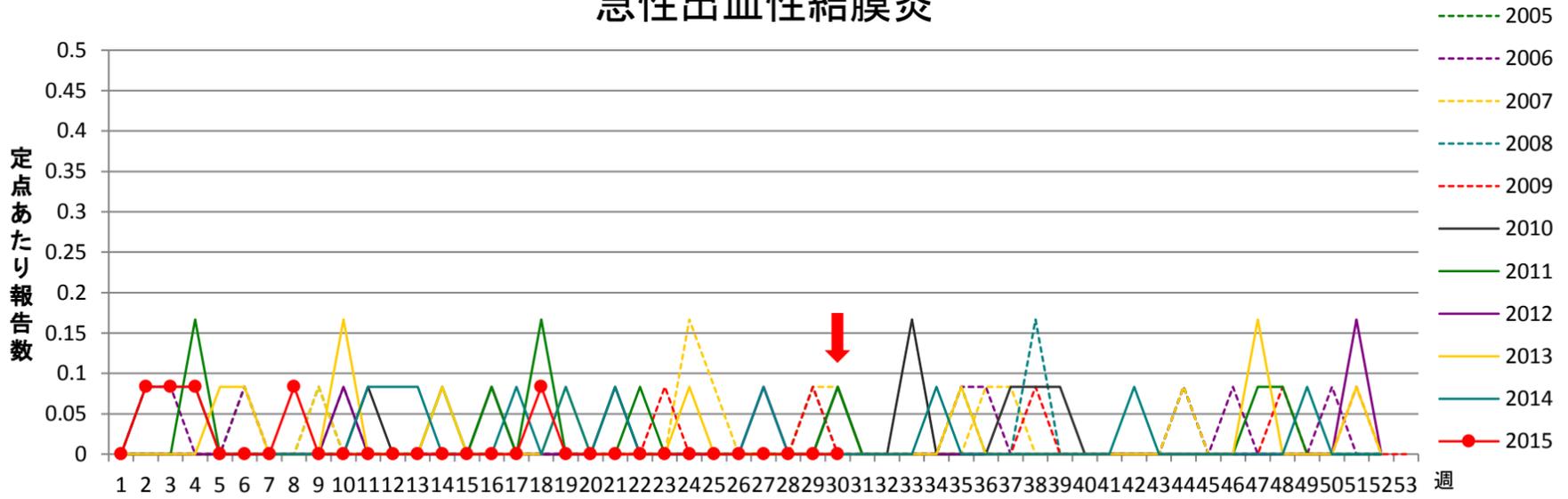
ヘルパンギーナ



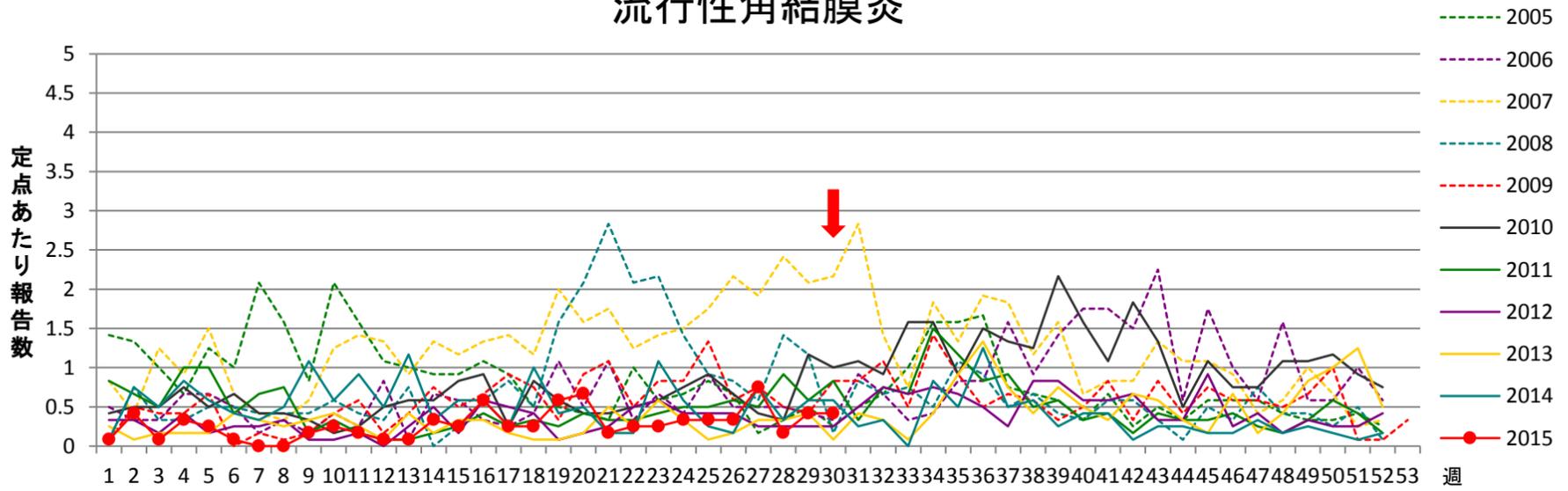
流行性耳下腺炎



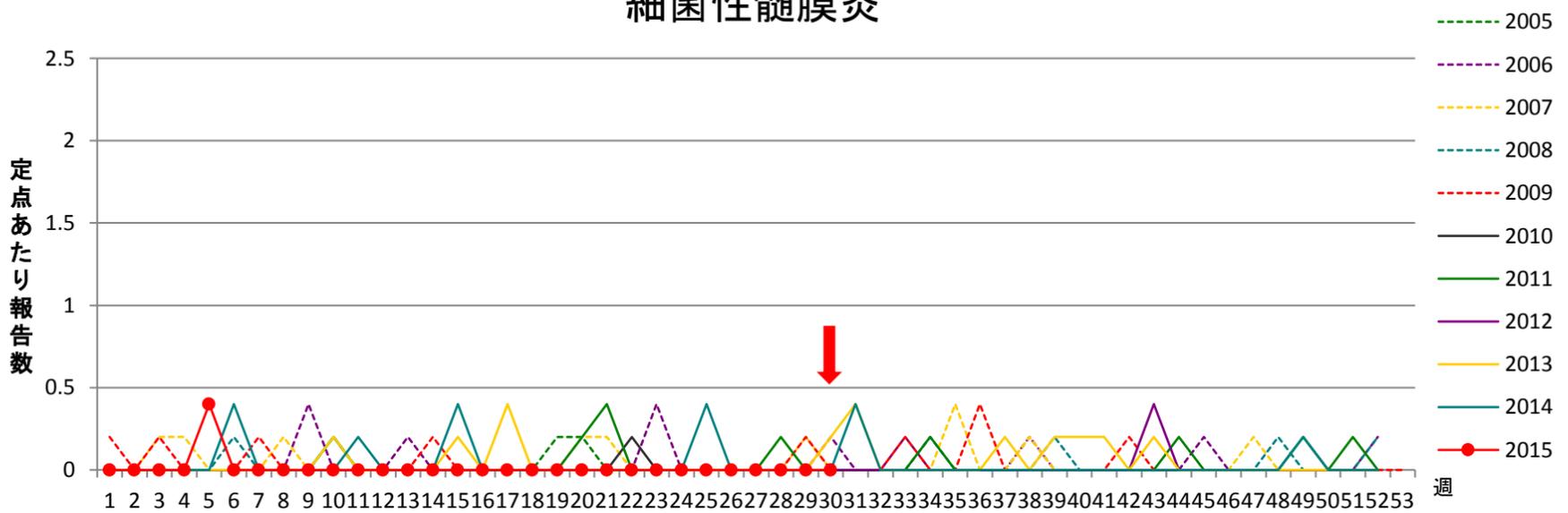
急性出血性結膜炎



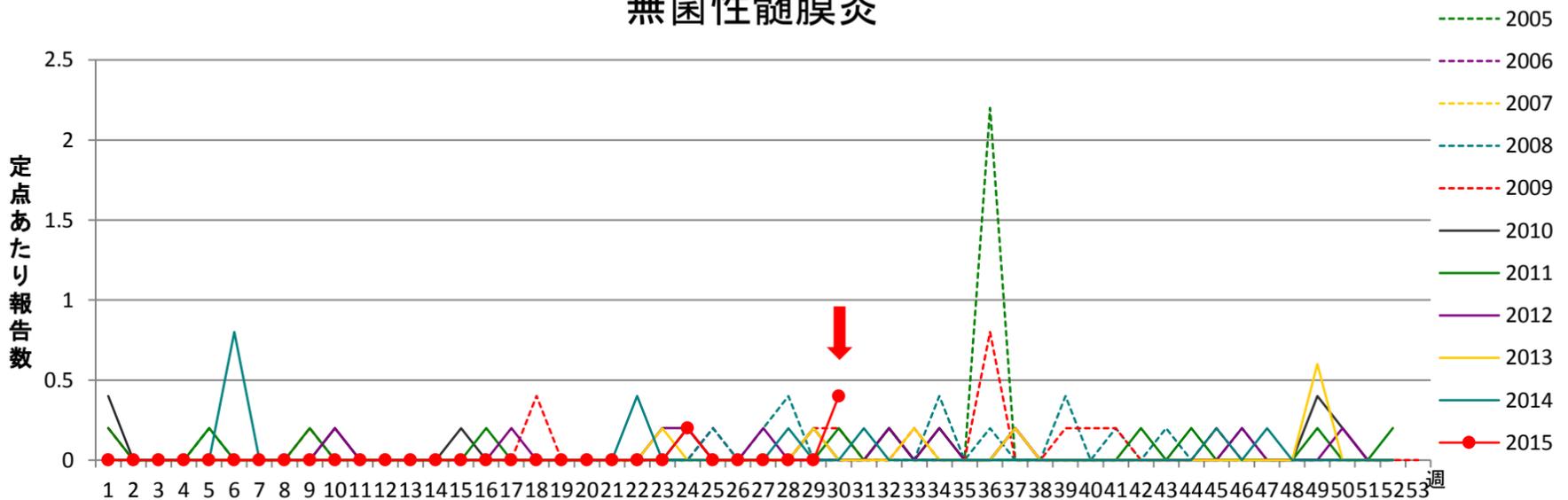
流行性角結膜炎



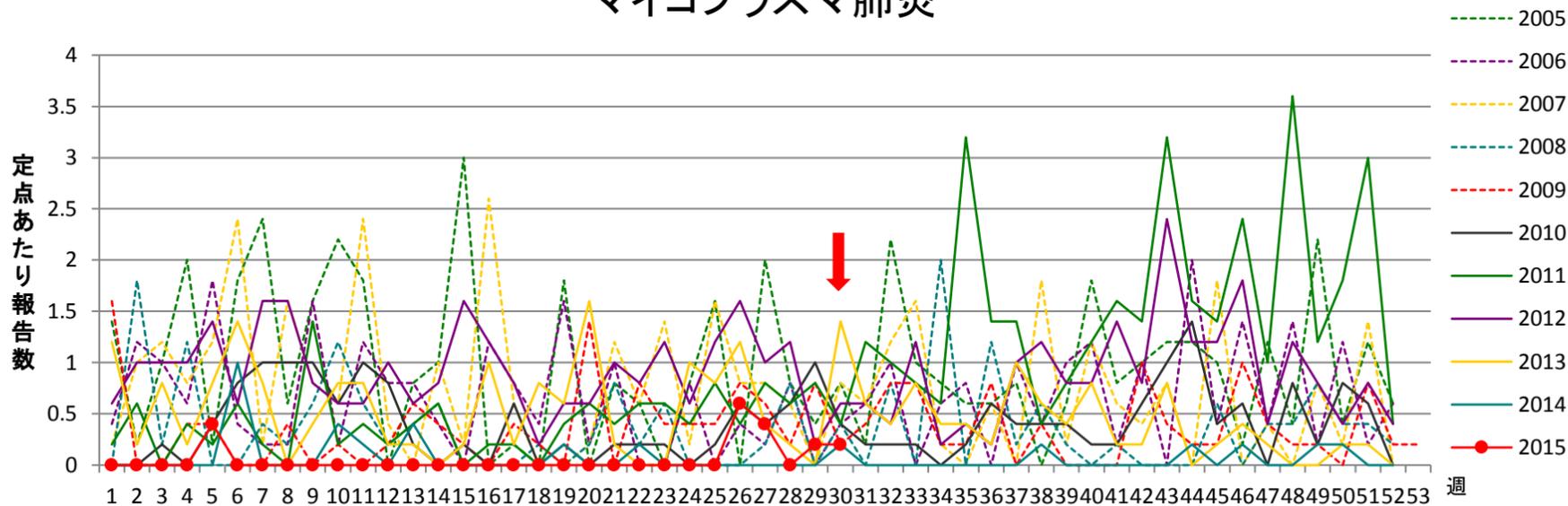
細菌性髄膜炎



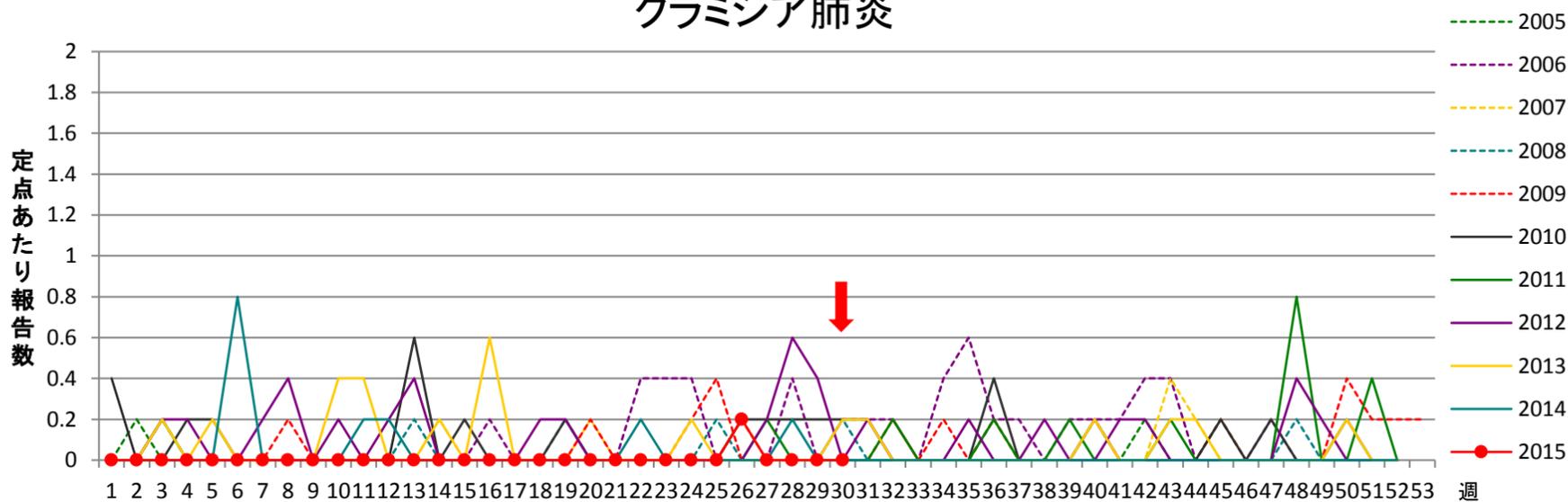
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

